



2020年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

2020年1月31日

上場会社名 アステラス製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4503

URL <https://www.astellas.com/jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO

(氏名) 安川 健司

問合せ先責任者 (役職名) 広報部長

(氏名) 緒方 ステイグ (TEL) 03(3244)3201

四半期報告書提出予定日 2020年2月7日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家・報道機関向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前 四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	988,535	△1.6	237,658	13.5	239,185	12.4	190,021	△0.8	190,021	△0.8	170,377	△13.1
2019年3月期第3四半期	1,005,028	0.6	209,371	16.5	212,828	15.3	191,535	34.3	191,535	34.3	196,167	△17.3
	基本的1株当たり 四半期利益				希薄化後1株当たり 四半期利益							
	円 銭				円 銭							
2020年3月期第3四半期	100.96				100.89							
2019年3月期第3四半期	98.63				98.53							

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,989,779	1,317,446	1,317,446	66.2
2019年3月期	1,897,648	1,258,396	1,258,396	66.3

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	-	19.00	-	19.00	38.00
2020年3月期	-	20.00	-	-	-
2020年3月期(予想)	-	-	-	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,256,000	△3.9	263,000	7.8	263,000	5.6	210,000	△5.5	210,000	△5.5	111.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

コアベースでの連結業績予想は次のとおりです。

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		コア営業利益		コア当期利益		基本的1株当たり コア当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,256,000	△3.9	264,000	△5.2	214,000	△14.2	113.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、会社の経常的な収益性を示す指標としてコアベースの業績を開示しています。コアベースの業績の定義につきましては、添付資料P.2に記載しています。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期第3四半期	1,888,823,175株	2019年3月期	1,979,823,175株
② 期末自己株式数	2020年3月期第3四半期	23,413,674株	2019年3月期	93,986,348株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期第3四半期	1,882,148,004株	2019年3月期第3四半期	1,941,915,014株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の予想及び添付資料に含まれる将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.9をご覧ください。

(四半期決算補足資料及び四半期決算説明会内容の入手方法)

四半期決算短信の開示とあわせて四半期決算補足資料及び四半期決算説明会資料を開示しています。

また、2020年1月31日(金)に証券アナリスト・機関投資家・報道機関向けにカンファレンス・コールを開催する予定です。このカンファレンス・コールの音声については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	9
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	10
(1) 要約四半期連結純損益計算書	10
(2) 要約四半期連結包括利益計算書	11
(3) 要約四半期連結財政状態計算書	12
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	14
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16
(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	17
(継続企業の前提に関する注記)	17
(会計方針の変更)	17
(企業結合)	18

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

<連結業績（コアベース^(注)）>

当第3四半期累計期間（2019年4月1日から12月31日）の連結業績（コアベース）は下表の通りです。売上収益、コア営業利益、コア四半期利益はいずれも減少しました。

[連結業績（コアベース）]

（単位：百万円）

	前第3四半期 (2019年3月期)	当第3四半期 (2020年3月期)	増減額 (増減率)
売上収益	1,005,028	988,535	△16,493 (△1.6%)
売上原価	227,711	221,642	△6,069 (△2.7%)
販売費及び 一般管理費	355,784	353,575	△2,208 (△0.6%)
研究開発費	149,959	159,754	+9,795 (+6.5%)
無形資産償却費	26,487	15,437	△11,050 (△41.7%)
持分法による投資損益	△1,103	△2,179	△1,076 (-)
コア営業利益	243,984	235,947	△8,037 (△3.3%)
コア四半期利益	217,877	191,851	△26,026 (△11.9%)
基本的1株当たり コア四半期利益（円）	112.20	101.93	△10.27 (△9.1%)

(注) 当社は、会社の経常的な収益性を示す指標としてコアベースの業績を開示しています。当該コアベースの業績は、フルベースの業績から当社が定める非経常的な項目を調整項目として除外したものです。調整項目には、減損損失、有形固定資産売却損益、リストラクチャリング費用、災害による損失、訴訟等による多額の賠償又は和解費用等のほか、会社が除外すべきと判断する項目が含まれます。なお、フルベースの実績からコアベースの実績への調整表は、決算補足資料に記載しています。

【売上収益】

売上収益は9,885億円（前年同期比1.6%減）となりました。

- ・ 主力製品の前立腺がん治療剤XTANDI／イクスタンジ、過活動膀胱（OAB）治療剤ベタニス／ミラベトリック／ベットミガの売上が引き続き拡大しました。
- ・ 新製品のFLT3阻害剤ゾスパタが日本と米国で増加したほか、骨粗鬆症治療剤イベニティをはじめとする日本の新製品群が伸長しました。
- ・ これによって、OAB治療剤ベシケア、抗がん剤タルセバの独占販売期間満了や日本における喘息治療剤シムビコート、KMバイオロジクス社のヒト用ワクチン等の契約終了の影響等による売上の減少を補い、米ドル及びユーロに対する円高に伴うマイナスの影響を除くと、1.4%の増収となりました。

【コア営業利益／コア四半期利益】

- ・ 売上総利益は、7,669億円（同1.3%減）となりました。売上原価率は、前年同期に比べ0.2ポイント低下し、22.4%となりました。
- ・ 販売費及び一般管理費は、3,536億円（同0.6%減）となりました。経費の効率的な使用やリソース配分の最適化を推進することで、XTANDIに係る米国での売上拡大に伴う共同販促費用の増加や新製品立ち上げのために必要な投資の増加を一部吸収しました。これに加えて、第2四半期における損失評価引当金の戻入れが一過性の費用減少要因となりました。
- ・ 研究開発費は、1,598億円（同6.5%増）となりました。重点後期開発品や新たな領域・技術への投資拡充に伴う費用等が増加しました。売上収益研究開発費比率は、前年同期に比べ1.2ポイント増加し、16.2%となりました。
- ・ 無形資産償却費は、154億円（同41.7%減）となりました。

以上の結果、コア営業利益は2,359億円（同3.3%減）、コア四半期利益は1,919億円（同11.9%減）となりました。なお、為替の影響を除くと、コア営業利益は1.6%の増益となりました。

【為替の業績への影響】

当第3四半期累計期間の為替レートは、下表の通りです。これらの結果、前第3四半期累計期間の為替レートを適用した場合と比べ、売上収益においては306億円の減少、コア営業利益においては120億円の減少の影響がありました。

期中平均レート	前第3四半期	当第3四半期	変動
米ドル/円	111	109	2円高
ユーロ/円	129	121	8円高

期首・期末の変動	前第3四半期	当第3四半期
米ドル/円	5円安	1円高
ユーロ/円	4円高	2円高

<連結業績（フルベース）>

当第3四半期累計期間の連結業績（フルベース）は下表の通りです。営業利益、税引前四半期利益は増加しましたが、四半期利益は減少しました。

フルベースの業績には、コアベースの業績で除外される「その他の収益」、「その他の費用」等が含まれます。

当第3四半期累計期間における「その他の収益」は151億円（前年同期：131億円）となりました。為替差益のほか、当第3四半期に有形固定資産売却益等を「その他の収益」として計上しました。「その他の費用」は134億円（同：478億円）となりました。選択的ニューロキニン3（NK3）受容体拮抗薬 fezolinetant の開発が第Ⅲ相試験段階に入ったことに伴い、開発の進捗に応じて支払うOgeda社の旧株主への条件付対価の公正価値が増加したため、その増加分を「その他の費用」として第1四半期に計上しました。

[連結業績（フルベース）]

（単位：百万円）

	前第3四半期 (2019年3月期)	当第3四半期 (2020年3月期)	増減額 (増減率)
売上収益	1,005,028	988,535	△16,493 (△1.6%)
営業利益	209,371	237,658	+28,287 (+13.5%)
税引前四半期利益	212,828	239,185	+26,357 (+12.4%)
四半期利益	191,535	190,021	△1,514 (△0.8%)
基本的1株当たり 四半期利益（円）	98.63	100.96	+2.33 (+2.4%)
四半期包括利益	196,167	170,377	△25,789 (△13.1%)

【主要製品の売上】

(単位：億円)

	前第3四半期 (2019年3月期)	当第3四半期 (2020年3月期)	増減率
XTANDI/イクスタンジ	2,534	2,979	+17.6%
ゾスパタ	6	98	—
ベタニス/ミラベトリック /ベットミガ	1,099	1,210	+10.1%
ベシケア	744	362	△51.4%
プログラフ*	1,500	1,462	△2.5%

*プログラフ：アドバグラフ、グラセプター、アスタグラフXLを含む

◇ XTANDI/イクスタンジ

- ・売上は2,979億円（前年同期比17.6%増）となりました。日本、米国、エスタブリッシュドマーケット*1、グレーターチャイナ*2及びインターナショナル*3の全ての地域で売上が拡大しました。

◇ ゾスパタ

- ・日本、米国に加え、当第3四半期において欧州で発売しました。売上は98億円となりました。

◇ 泌尿器OAB製品

- ・ベタニス/ミラベトリック/ベットミガの売上は1,210億円（同10.1%増）となりました。全ての地域で売上が増加しました。また、ベシケアの売上は、米国及び欧州において独占販売期間満了に伴う後発医薬品発売の影響を受け、362億円（同51.4%減）となりました。

◇ プログラフ

- ・売上は1,462億円（同2.5%減）となりました。グレーターチャイナ、インターナショナルで伸長しましたが、日本、米国、エスタブリッシュドマーケットの売上が減少しました。

◇ その他の主要製品・新製品の状況

- ・日本では、糖尿病治療剤スーグラとスー ज्याヌ配合錠、慢性便秘症治療剤リンゼス、イベニティ等の新製品群の売上が引き続き拡大しました。また、当第3四半期において腎性貧血治療剤エベレンゾを発売しました。
- ・米国では、アゾール系抗真菌剤クレセンバの売上が拡大しました。また、当第3四半期においてSeattle Genetics社と共同開発を進めている尿路上皮がん治療剤PADCEVが発売されました。

*1 エスタブリッシュドマーケット：欧州、カナダ、オーストラリア

*2 グレーターチャイナ：中国、香港、台湾

*3 インターナショナル：ロシア、中南米、中東、アフリカ、東南アジア、南アジア、韓国、輸出売上等

【地域別売上収益の状況】

地域別の売上収益は下表の通りです。米国、インターナショナルは増加、日本、エスタブリッシュドマーケット及びグレーターチャイナは減少しました。

エスタブリッシュドマーケット、グレーターチャイナは為替の影響を受けて減少しましたが、その影響を除くと増加しました。

(単位：億円)

	前第3四半期 (2019年3月期)	当第3四半期 (2020年3月期)	増減率
日本	2,919	2,762	△5.4%
米国	3,212	3,319	+3.3%
エスタブリッシュド マーケット	2,289	2,180	△4.8%
グレーターチャイナ	451	444	△1.5%
インターナショナル	946	1,028	+8.7%

(2) 財政状態に関する説明

①資産、資本及び負債の状況

当第3四半期末(2019年12月31日時点)の連結財政状態計算書の概要及び前期末からの主な変動は以下の通りです。

【資産】

当第3四半期末における総資産は1兆9,898億円(前期末比921億円増)となりました。

<非流動資産>当第3四半期末:1兆1,556億円(同1,151億円増)

- ・ のれんは2,269億円(同11億円増)、無形資産は4,554億円(同257億円増)となりました。
- ・ IFRS第16号「リース」の適用により、当期首に使用权資産を831億円追加で認識したことに伴い、有形固定資産は2,609億円(同874億円増)となりました。
- ・ 2019年12月に米国のXyphos社を買収したことに伴い、無形資産、のれんが増加しました。

<流動資産>当第3四半期末:8,341億円(同230億円減)

- ・ 現金及び現金同等物は2,776億円(同335億円減)となりました。

【資本】

資本合計は、1兆3,174億円(同590億円増)となり、親会社所有者帰属持分比率は66.2%となりました。

- ・ 四半期利益1,900億円を計上した一方で、剰余金の配当735億円を実施しました。
- ・ なお、2019年5月に自己株式の消却1,596億円(9,100万株)を実施しました。

【負債】

負債合計は、6,723億円(同331億円増)となりました。

<非流動負債>当第3四半期末:2,063億円(同647億円増)

- ・ IFRS第16号「リース」の適用により、当期首にリース負債を755億円追加で認識したことに伴い、その他の金融負債は1,258億円(同729億円増)となりました。

<流動負債>当第3四半期末:4,661億円(同316億円減)

- ・ IFRS第16号「リース」の適用により、当期首にリース負債を169億円追加で認識したことに伴い、その他の金融負債は335億円(同194億円増)となりました。

②キャッシュ・フローの状況

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

当第3四半期累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、1,703億円（前年同期比334億円減）となりました。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

当第3四半期累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、△744億円（同459億円支出増）となりました。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

当第3四半期累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、△1,252億円（同481億円支出減）となりました。

- ・ 配当金の支払額は735億円（同15億円増）となりました。

以上の結果、当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は、2,776億円（前期末比335億円減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期（2020年3月期）の通期連結業績予想は下表の通りです。2019年10月に公表した業績予想を据え置き、修正していません。

[通期連結業績予想（コアベース）]

(単位：百万円)

	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期予想	増減額 (増減率)
売上収益	1,306,348	1,256,000	△50,348 (△3.9%)
研究開発費	208,682	216,000	+7,318 (+3.5%)
コア営業利益	278,514	264,000	△14,514 (△5.2%)
コア当期利益	249,343	214,000	△35,343 (△14.2%)
基本的1株当たり コア当期利益(円)	129.07	113.95	△15.12 (△11.7%)

[通期連結業績予想（フルベース）]

(単位：百万円)

	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期予想	増減額 (増減率)
売上収益	1,306,348	1,256,000	△50,348 (△3.9%)
営業利益	243,912	263,000	+19,088 (+7.8%)
税引前利益	248,967	263,000	+14,033 (+5.6%)
当期利益	222,265	210,000	△12,265 (△5.5%)
基本的1株当たり 当期利益(円)	115.05	111.82	△3.23 (△2.8%)

[通期の想定為替レート]

2020年3月期(想定)：108円/米ドル、120円/ユーロ

(第3四半期以降の想定為替レート：108円/米ドル、118円/ユーロ)

2019年3月期(実績)：111円/米ドル、128円/ユーロ

(注) 基本的1株当たりコア当期利益及び基本的1株当たり当期利益の予想は、2019年11月1日から12月31日までに実施した自己株式の取得を反映しています。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結純損益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上収益	1,005,028	988,535
売上原価	△227,711	△221,642
売上総利益	777,317	766,893
販売費及び一般管理費	△355,784	△353,575
研究開発費	△149,959	△159,754
無形資産償却費	△26,487	△15,437
持分法による投資損益	△1,103	△2,179
その他の収益	13,140	15,079
その他の費用	△47,754	△13,368
営業利益	209,371	237,658
金融収益	4,356	3,831
金融費用	△898	△2,304
税引前四半期利益	212,828	239,185
法人所得税費用	△21,293	△49,164
四半期利益	191,535	190,021
四半期利益の帰属 親会社の所有者	191,535	190,021
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	98.63	100.96
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	98.53	100.89

(2) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期利益	191,535	190,021
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産	734	△4,546
確定給付制度の再測定	△1,034	696
小計	△300	△3,851
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の外貨換算差額	4,932	△15,793
小計	4,932	△15,793
その他の包括利益	4,632	△19,644
四半期包括利益合計	196,167	170,377
四半期包括利益の帰属 親会社の所有者	196,167	170,377

(3) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	173,483	260,902
のれん	225,864	226,924
無形資産	429,707	455,406
売上債権及びその他の債権	25,248	33,404
持分法で会計処理されている投資	3,653	3,625
繰延税金資産	92,958	84,942
その他の金融資産	81,457	81,462
その他の非流動資産	8,121	8,964
非流動資産合計	1,040,489	1,155,629
流動資産		
棚卸資産	151,511	149,276
売上債権及びその他の債権	342,628	366,940
未収法人所得税	20,113	16,757
その他の金融資産	2,607	4,538
その他の流動資産	25,080	19,037
現金及び現金同等物	311,074	277,602
小計	853,012	834,150
売却目的で保有する資産	4,147	—
流動資産合計	857,159	834,150
資産合計	1,897,648	1,989,779

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資本及び負債		
資本		
資本金	103,001	103,001
資本剰余金	177,301	177,256
自己株式	△164,629	△42,410
利益剰余金	991,957	949,853
その他の資本の構成要素	150,767	129,746
親会社の所有者に帰属する持分合計	1,258,396	1,317,446
資本合計	1,258,396	1,317,446
負債		
非流動負債		
仕入債務及びその他の債務	1,572	3,153
繰延税金負債	5,175	5,094
退職給付に係る負債	40,163	40,228
引当金	5,416	3,094
その他の金融負債	52,882	125,796
その他の非流動負債	36,379	28,910
非流動負債合計	141,587	206,276
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	185,280	139,856
未払法人所得税	17,587	27,510
引当金	22,843	11,816
その他の金融負債	14,136	33,509
その他の流動負債	255,913	253,367
小計	495,759	466,058
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	1,906	—
流動負債合計	497,665	466,058
負債合計	639,252	672,333
資本及び負債合計	1,897,648	1,989,779

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					新株予約権	在外営業活動体の外貨換算差額
2018年4月1日残高	103,001	177,219	△135,951	976,076	1,477	128,179
会計方針の変更による累積的影響額	—	—	—	—	—	—
会計方針の変更を反映した2018年4月1日残高	103,001	177,219	△135,951	976,076	1,477	128,179
四半期包括利益						
四半期利益	—	—	—	191,535	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	—	4,932
四半期包括利益合計	—	—	—	191,535	—	4,932
所有者との取引額						
自己株式の取得	—	—	△100,440	—	—	—
自己株式の処分	—	△281	1,247	△645	△320	—
自己株式の消却	—	—	130,419	△130,419	—	—
配当金	—	—	—	△72,066	—	—
株式報酬取引	—	258	—	—	—	—
振替	—	—	—	△1,416	—	—
所有者との取引額合計	—	△23	31,226	△204,546	△320	—
2018年12月31日残高	103,001	177,195	△104,725	963,065	1,157	133,111

2019年4月1日残高	103,001	177,301	△164,629	991,957	1,127	125,656
四半期包括利益						
四半期利益	—	—	—	190,021	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	—	△15,793
四半期包括利益合計	—	—	—	190,021	—	△15,793
所有者との取引額						
自己株式の取得	—	—	△38,056	—	—	—
自己株式の処分	—	△313	694	△256	△124	—
自己株式の消却	—	—	159,581	△159,581	—	—
配当金	—	—	—	△73,539	—	—
株式報酬取引	—	268	—	—	—	—
振替	—	—	—	1,253	—	—
所有者との取引額合計	—	△45	122,219	△232,124	△124	—
2019年12月31日残高	103,001	177,256	△42,410	949,853	1,002	109,864

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					資本合計
	その他の資本の構成要素				合計	
	売却可能 金融資産の 公正価値の 変動	その他の包括 利益を通じて 公正価値で 測定する 金融資産	確定給付制度 の再測定	合計		
2018年4月1日残高	18,289	—	—	147,945	1,268,289	1,268,289
会計方針の変更による累積的影響額	△18,289	18,289	—	—	—	—
会計方針の変更を反映した 2018年4月1日残高	—	18,289	—	147,945	1,268,289	1,268,289
四半期包括利益						
四半期利益	—	—	—	—	191,535	191,535
その他の包括利益	—	734	△1,034	4,632	4,632	4,632
四半期包括利益合計	—	734	△1,034	4,632	196,167	196,167
所有者との取引額						
自己株式の取得	—	—	—	—	△100,440	△100,440
自己株式の処分	—	—	—	△320	1	1
自己株式の消却	—	—	—	—	—	—
配当金	—	—	—	—	△72,066	△72,066
株式報酬取引	—	—	—	—	258	258
振替	—	382	1,034	1,416	—	—
所有者との取引額合計	—	382	1,034	1,096	△172,247	△172,247
2018年12月31日残高	—	19,405	—	153,673	1,292,209	1,292,209

2019年4月1日残高	—	23,984	—	150,767	1,258,396	1,258,396
四半期包括利益						
四半期利益	—	—	—	—	190,021	190,021
その他の包括利益	—	△4,546	696	△19,644	△19,644	△19,644
四半期包括利益合計	—	△4,546	696	△19,644	170,377	170,377
所有者との取引額						
自己株式の取得	—	—	—	—	△38,056	△38,056
自己株式の処分	—	—	—	△124	0	0
自己株式の消却	—	—	—	—	—	—
配当金	—	—	—	—	△73,539	△73,539
株式報酬取引	—	—	—	—	268	268
振替	—	△557	△696	△1,253	—	—
所有者との取引額合計	—	△557	△696	△1,377	△111,327	△111,327
2019年12月31日残高	—	18,880	—	129,746	1,317,446	1,317,446

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	212,828	239,185
減価償却費及び無形資産償却費	47,756	48,295
減損損失(又は戻入れ)	11,356	83
金融収益及び金融費用	△3,457	△1,527
棚卸資産の増減額	1,999	△988
売上債権及びその他の債権の増減額	△26,946	△29,435
仕入債務及びその他の債務の増減額	44,619	△42,678
その他	△29,342	△12,124
小計	258,812	200,810
法人所得税の支払額	△55,131	△30,520
営業活動によるキャッシュ・フロー	203,681	170,290
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△14,542	△31,082
有形固定資産の売却による収入	16,656	6,811
無形資産の取得による支出	△19,946	△25,496
子会社の取得による支出	△19,290	△12,913
利息及び配当金の受取額	2,016	1,887
その他	6,646	△13,593
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,461	△74,386
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△100,440	△38,056
親会社の所有者への配当金の支払額	△72,066	△73,539
リース負債の返済による支出	—	△12,637
その他	△833	△999
財務活動によるキャッシュ・フロー	△173,340	△125,232
現金及び現金同等物の為替変動による影響	△478	△4,143
売却目的で保有する資産への振替に伴う減少額	△1,837	—
現金及び現金同等物の増減額	△435	△33,472
現金及び現金同等物の期首残高	331,731	311,074
現金及び現金同等物の四半期末残高	331,296	277,602

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積年次実効税率を基に算定しています。

当社グループは、第1四半期連結会計期間から、以下の基準を適用しています。

IFRS		新設・改訂の概要
IFRS第16号	リース	リースに関する会計処理の改訂

IFRS第16号の適用にあたり、契約がリース又はリースを含んだものであるかどうかを適用開始日現在で見直さない実務上の便法を適用しています。また、経過措置として認められている累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しています。

当社グループは、契約時に契約がリース又はリースを含んだものであるかどうかを、契約の実質に基づき判断しています。リース期間は、解約不能期間に延長するオプションと解約するオプションを加えて決定していますが、適用開始日においては、事後的判断も使用しています。特性が合理的に類似したリースのポートフォリオには単一の割引率を使用しています。短期リース及び原資産が少額であるリースについては、使用権資産とリース負債を認識せず、当該リースに関連したリース料をリース期間にわたり費用として認識する場合があります。

① 使用権資産

使用権資産は、リース開始日時点のリース負債の当初測定額に、発生した当初直接コスト等を調整した取得原価で測定しています。

開始日後は、使用権資産の耐用年数又はリース期間のいずれか短い方の期間にわたり、定額法で減価償却しています。

② リース負債

リース負債は、リース開始日時点で支払われていないリース料をリースの計算利率を用いて割り引いた現在価値で当初測定しています。リースの計算利率を容易に算定できない場合には、追加借入利率を使用しています。

開始日後は、リース負債に係る金利を反映するように帳簿価額を増額し、支払われたリース料を反映するように帳簿価額を減額し、リース負債の見直しやリースの条件変更等に伴って必要に応じて再測定しています。

IFRS第16号の適用により、要約四半期連結財政状態計算書において、適用開始日に使用権資産として「有形固定資産」を83,061百万円、リース負債として非流動負債及び流動負債の「その他の金融負債」をそれぞれ75,455百万円、16,859百万円追加で認識しています。その他の資産及び負債への重要な影響はありません。利益剰余金期首残高への影響はありません。要約四半期連結純損益計算書への重要な影響はありません。要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、従来、営業活動によるキャッシュ・フローに分類していたリース料を、主に、財務活動によるキャッシュ・フローとして分類しています。

(企業結合)

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

Xyphos Biosciences, Inc.の取得

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称: Xyphos Biosciences, Inc. (以下、Xyphos社)

事業の内容: がん免疫治療技術を活用した医薬品の研究開発

② 取得日

米国太平洋時間 2019年12月26日

③ 取得した議決権付資本持分の割合

100%

④ 被取得企業の支配の獲得方法

契約一時金及びマイルストーンを支払対価とする株式取得

⑤ 企業結合を行った主な理由

Xyphos社は、2017年に設立されたバイオテクノロジー企業であり、細胞療法に関する独自の技術プラットフォームであるACCEL™ (Advanced Cellular Control through Engineered Ligands) と、がん免疫の分野をリードする優秀な人材を有しています。

本買収により獲得した同技術プラットフォームを、これまで培ってきた再生・細胞医療のケイパビリティと組み合わせることにより、がん免疫における次世代高機能細胞の創製が可能となり、技術価値を最大化できると確信しています。

(2) 取得日現在における取得資産、引受負債及び支払対価の公正価値

	金額(単位:百万円)
無形資産	17,659
現金及び現金同等物	27
その他の資産	367
繰延税金負債	△3,443
その他の負債	△2,578
取得資産及び引受負債の公正価値(純額)	12,033
のれん	3,798
合計	15,831
現金	9,571
条件付対価	6,259
支払対価の公正価値の合計	15,831

上記のうち、一部の金額については取得対価の配分が完了していないため、現時点で入手可能な合理的情報に基づき算定された暫定的な公正価値となっています。

なお、のれんの主な内容は、個別に認識要件を満たさない、取得から生じることが期待される既存事業とのシナジー効果及び超過収益力です。

(3) 条件付対価

条件付対価は、開発の進捗に応じて支払うマイルストーンであり、最大で545百万米ドル(59,710百万円)を支払う可能性があります。

(4) キャッシュ・フロー情報

	金額 (単位: 百万円)
支払対価の公正価値の合計	15,831
支払対価に含まれる条件付対価の公正価値	△6,259
未払の契約一時金	△1,581
被取得企業が保有する現金及び現金同等物	△27
子会社の取得による支出	7,964

(5) 取得関連費用

金額的重要性が低いため、記載を省略しています。

(6) 要約四半期連結純損益計算書に与える影響

- ① 当第3四半期連結累計期間の要約四半期連結純損益計算書で認識されている取得日以降の被取得企業の税引前四半期利益
金額的重要性が低いため、記載を省略しています。
- ② 企業結合が期首に実施されたと仮定した場合の当第3四半期連結累計期間の要約四半期連結純損益計算書の税引前四半期利益に与える影響額
金額的重要性が低いため、記載を省略しています。